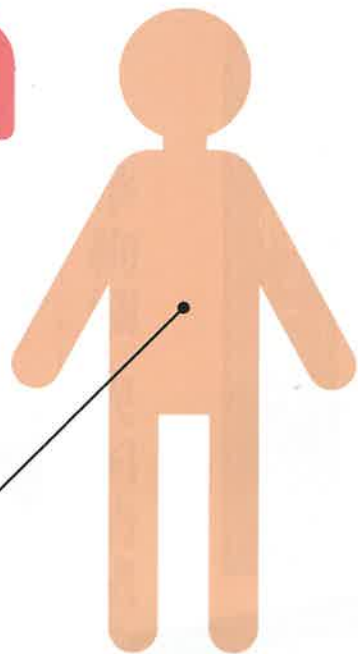


臓器のはなし



お医者さんの選び方

ホームドクターは“相性”が大事

大病院の外来診療は紹介状が必要です

ちよつと体調を崩したときや気になる点があったとき、気軽に相談できるお医者さんはいらつじやいますか？このように相談できる身近なドクターを「かかりつけ医」「ホームドクター」といいます。

かかりつけ医は、自分の専門分

野、あるいは専門外であっても可能な範囲の診察を行います。そして患者さんの症状により高度な診療、検査などが必要な場合、紹介状(診療情報提供書)を作成し、総合病院・大学病院のような大きな病院を紹介してくれるのが通常の流れです。

たとえば、風邪をひいたので、かかりつけ医で風邪薬を出してもらい、様子をみるとします。けれども、咳がなかなか止まらず、原因が判明しない場合、「呼吸器内科専門の先生に診てもらいましょう」と病院を紹介され、詳しい検査を受けられるはず。ただ私の患者さんから聞いた話ですが、なかなか症状が改善しない場合でも、病院を紹介してくれなかったドクターもいたとか…。

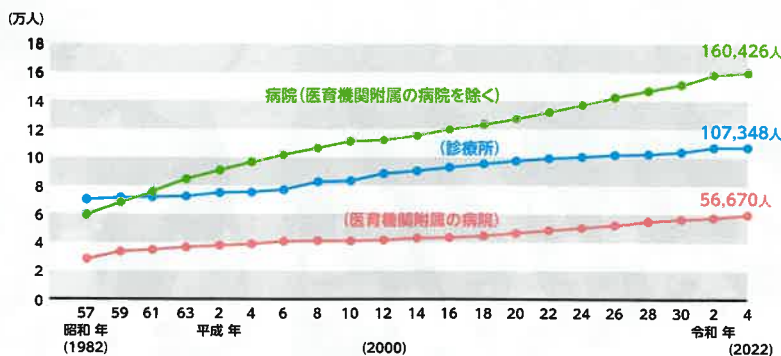
SNSの噂より信頼できる直接の情報

日本の法律上、紹介状がなくても大病院で受診できることになっていますが、実際にはいきなり外来を訪れて断られるケースも少なくないそうです。また初診料7000円(歯科の場合は5000円)以上と、金銭的な負担も増えてしまいます。

選ぶ際、インターネットで検索する人が増えています。ホームページを見ると、専門分野について詳細に書かれている傾向があります。これは自分の長所をアピールするともに、なるべく自分の専門の患者さんを診たいためだと思います。ただ、あまり特化しすぎると、「あの先生はこの病気がか診てくれない」と敬遠されてしまうこともあるようです。内科なら、ひと通りの病気を診てくれる先生のほうが、やはりホームドクターとしては適しているし、患者さんも助かると思います。

「あそこの先生はイマイチ」などのインターネットやSNSの書き込み情報に振り回されるのは感心しません。医師も患者も人間同士、やはり相性というものがあります。たとえば、丁寧に説明してくれる先生は高齢者の方に喜ばれる一方、要点だけ言ってくれるほうが合う方もいるはず。合う・合わないは、実際に話してみないとわかりません。かといって、頻繁にあちこちのクリニックを試すことは非現実的。親しい知人などから直接、聞いた話は信頼できる情報といえるでしょう。

施設の種別にみた医療施設に従事する医師数の年次推移



出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計の概況」(2022年)

監修

浅海 直
あさうみ すなお
(医療法人社団 平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。